

名古屋城跡保存活用計画（案）概要版

本丸の整備の考え方

戦災等により失われた建造物で、復元整備が可能なものは、順次復元整備を行い、天守・御殿・櫓・門で構成された往時の姿を実感できる場とする。

* 天守も例外としない

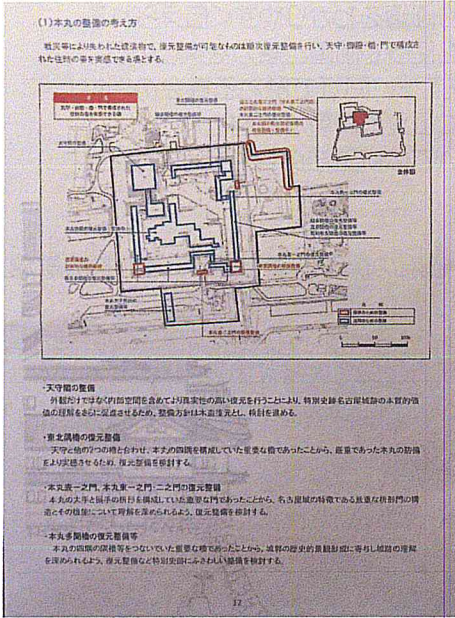
天守閣の整備

外観だけでなく内部空間を含めてより真実性の高い復元を行うことにより、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解を促進させるため、**整備方針は木造復元とし、検討を進める。**

より真実性の高い復元とは

少しでも失われる前の姿に近いものを造ること

* 必然的に木造復元となる



保存活用計画案 天守閣の整備部分 要約 2017.11

1. 現天守閣の価値

- 市民の機運により再建が推し進められ、莫大な寄付とともに実現した戦災復興の象徴
- 耐震耐火構造、求められた時代に、豊富な資料とケーソン工法によりSRC造で、外観復元がされた。
- 根拠資料の豊富さとそれに基づく外観復元は、他の城郭には見られない特徴。
- 昭和37年の博物館相当施設の指定後、一般公衆の教養に資する役目を果たしてきた
- 小天守閣には多数の資料を収蔵しており、展示・収蔵機能を兼ね備え博物館として市民生活に寄与。

2. 現天守閣の課題

- 現行基準に対して既存不適格（最上階段の防火区画の欠如・避難階段までの歩行距離の長さ等）
- 平成22年度の耐震対策調査においてIS値が基準値を下回りとりわけ7階は震度6強以上の大地震では倒壊の危険性が高いと評価される。
- コンクリートの中酸化深さ試験の結果、大天守において重度の劣化箇所が一部認められた。
- エレベーター等の設備の老朽化、外壁の剥離等の発生
- エレベーターは5階止まりで最上階までは階段となり、バリアフリーに対応していない
- 大天守北面、小天守西面の石垣に問題（孕み出し）あり
- 石垣には被熱しての劣化が著しい石材がある
- 石垣の間詰石等の落下が見られる
- 博物館機能を有しているが収蔵庫が狭い。展示物の運搬通路となる橋台に屋根がない

3. 整備方針（耐震改修と木造復元）ごとの利点と課題

耐震改修	木造復元
<p>(1)利点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既存建物の活用し安全性の向上をはかれる ○現天守閣の持つ価値を保存し、後世に残すことができる。 ○現状の博物館機能を維持、継承することができる 	<p>(1)利点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近世城郭築城技術の完成期を実感できる空間を創出。 ○本丸御殿との目的役割の違いを実体験できる学習の場 ○天守閣の建物自体が往時の用途や機能の理解に役立つ ○狭間や石落とし等の建築的特徴を鑑賞できる。

- 内部空間の木質化等で観覧環境の向上が可能
- 空調・照明等の設備改修で快適な展示空間を維持
- 多機能トイレの増設で快適性の向上ができる。
- 内外の全面的リニューアルで観光面の魅力の向上

(2) 課題

- 真実性の高い内部空間の復元はなされていないため、史跡の本質的理解促進につながりにくい。
- 築城当時の天守閣の実感が得難い。
- 現行基準に対して既存不適格な部分がある。
- 耐震壁等置により展示収蔵機能の改修が必要。
- 外部改修工事も併せて必要。
- コンクリの中性化、鉄筋の腐食への対策を要する。
- 7階までのバリアフリー対策が必要。
- 年齢や障害の有無、言語の違いにかかわらず、誰もが楽しめる展示の工夫が必要。
- 博物館として収蔵面、搬出面での課題がある
- 耐震改修期間14ヶ月の間の入場者の減少。
- 石垣への悪影響
- 石垣保全のための十分な調査
- 観覧動線に接する石垣に対する安全対策

(3) 対策

- 往時の用途や機能を深める展示機能等の充実
- 現行基準に対して既存不適格となっている事項を精査し、現行基準に適合させるかどうか検討を行う。
- 別途、防火設備の設置階段の増設等の改修工事を。
- 展示収納機能について全面リニューアルを実施。
- 屋根および外壁の改修と、鉄筋の腐食を防ぐ。
- 最上階までのエレベーターの改修を行う。
- パンフレット、多言語音声ガイド・案内スタッフを配置し、子供から高齢者まで楽しめる観覧環境を整える。

- 重要文化財等は西の丸に建設予定の重要文化財等展示収蔵施設に収蔵する。
- その他の収蔵物は、木造復元の場合は近接地に新たな展示・収蔵施設の建設等を検討する
- 耐震改修の場合14ヶ月間閉鎖。本丸御殿の活用で対応
- 木造復元の場合46ヶ月間閉鎖。復元過程の見学という付加価値を創出。
- 石垣の適切な保全のために必要な調査を十分に行う
- 石垣に影響を与えない工法を検討し実施する。

- 往時の姿と歴史的価値をわかりやすく伝えられる。
- 内部空間で五感を使って価値と魅力を楽しめる。
- 復元課程で、伝統工法に間近で触れる機会の提供。
- 伝統工法を後世に伝える貴重な教材となり得る。
- 現代の基準において伝統工法の再評価ができる

(2) 課題

- 現天守閣が持つ価値の保存および、可能な限りの継承に向けた対策の検討
- 移動の円滑化(バリアフリー)への対策の検討が必要
- 展示収蔵機能を新たに担う代替え施設の検討が必要
- 工事期間46ヶ月の間、観光魅力の低下が懸念される。
- 石垣への悪影響
- 石垣保全のための十分な調査
- 観覧動線に接する石垣に対する安全対策

(3) 対策

- 現天守閣の解体に関する記録を保存し公開する
- 現天守閣を偲ばせる部位の保存と伝承を検討する
- 博物館機能に代わり、天守閣自体が展示機能を有する
- 収蔵機能については後述
- 寄付募集等、市民と一体になって気運を高める
- 新たな名古屋のシンボル化を図る。
- バリアフリーへの対応が課題

4. 整備方針

木造復元は、耐震改修と比較して特別史跡内の建造物として、本質的価値の理解を促進すると言う点で優位性が高く、木造復元における様々な課題や現天守閣が持つ価値に対する対策も可能であると考えられるため、**整備方針は木造復元とし、検討を進める。**

市民のみなさまのご意見を募集します。 名古屋市観光文化交流局